

栃木県公安委員会

Tochigi Prefectural Public Safety Commission

令和8年5月・6月の活動状況

【春の警察功労勲章伝達式】

5月8日（金）、佐藤千鶴子委員長は、栃木県警察本部において開催された春の警察功労勲章伝達式に出席し、公安委員会を代表して祝辞を述べました。



【安全運転管理者等表彰式】

5月15日（金）、紀恵理子委員は、宇都宮市文化会館で開催された令和8年度安全運転管理者等表彰式に出席し、公安委員会を代表して挨拶を述べました。



【通信指令課及び交通管制センター視察】

5月20日（水）、佐藤千鶴子委員長、大森亮一委及び紀恵理子委員は、通信指令課及び交通管制センターを視察し、勤務員を激励しました。



【栃木県警察剣道大会】

5月28日（木）、大森亮一委員は、ユウケイ武道館で実施された第72回栃木県警察剣道大会に出席し、公安委員会を代表して挨拶を述べるとともに、試合を視察しました。



【留置施設視察委員任命式】

6月3日（水）、佐藤千鶴子委員長、大森亮一委員及び紀恵理子委員は、栃木県警察本部において開催された留置施設視察委員任命式に出席し、佐藤千鶴子委員長が辞令を交付するとともに、公安委員会を代表して挨拶を述べました。



【警察学校訓育】

6月17日（水）、大森亮一委員は、警察学校において初任科生に対し、これまでの人生経験を通じて得た教訓を基に訓育を行いました。



【テーマ別検討会】

6月24日（水）、佐藤千鶴子委員長、大森亮一委員及び紀恵理子委員は、定例公安委員会終了後に開催されたテーマ別検討会において、「国際テロ情勢」に関する意見交換を行いました。



【栃木県警察友の会総会】

6月25日（木）、佐藤千鶴子委員長、大森亮一委員及び紀恵理子委員は、ホテル東日本宇都宮において開催された栃木県警察友の会総会に出席しました。



【栃木県警察通信指令競技大会】

6月30日（火）、大森亮一委員は、栃木県警察本部で実施された令和8年度栃木県警察通信指令競技大会に出席し、公安委員会を代表して挨拶を述べるとともに、競技を視察しました。



公安委員の声

「ルミノール反応の思い出」

栃木県公安委員会 委員 大森 亮一

今から30年ほど前、部活動である科学部の顧問として生徒たちの研究を日本学生科学賞に応募したときの話である。テーマは「ルミノール反応の発光条件の検討」だった。

微量の血痕を調べる鑑識法として刑事ドラマなどでよく知られるこの反応は、青白い化学発光を伴うことが特徴である。

我が科学部の研究は、一般的に実験書などに示されている方法よりも強く発光させたいという生徒たちの素朴な思いから始まった。手づくりの測定装置によって、温度や濃度を変えたときの発光強度を測定する試行錯誤のなかで、強塩基性（アルカリ性）のもとで（水に溶けにくい）ルミノールの溶解量を増やすという手法を見出した。その結果、従来の方法より5倍ほど強い発光をもたらすことができた。この研究は、栃木県の審査会で「教育長賞」を受賞し、次いで全国大会でも入選の賞をいただいた。

日本学生科学賞は昭和32年に創設され、「科学の甲子園」ともいわれる伝統あるコンクールである。京王プラザホテルの大広間で行われた表彰式は、秋篠宮同妃両殿下ご臨席のもと、入賞者がそれぞれ紹介され、読売交響楽団の生演奏を聞きながら昼食をいただくという大変華やかなものであった。

その晩私は、同じく入賞した富山県の私立高校の顧問教員A先生とホテルで同室になった。教員になりたての私に対してA先生は40代半ばのいかにも働き盛りという風貌のベテラン教員だった。はじめは互いの出品研究の感想などを話していたのだが、酒を酌み交わすうち話題は教育論、組織論へと発展した。

A先生は言った。「公立の教員は甘い。職場に不満があれば、じっと我慢して人事異動を待てばいい。だが私立に逃げる場所はない。職員がそんな意識では学校が潰れる。」

栃木の県立教員として、じっと耐えて待っているような意識は勿論なかったが、自分の持ち場をこなすだけで手一杯で、組織全体、学校の存立をかけて仕事をするという意識は欠落していたことは自覚せざるを得なかった。この出会いは、私にとって「目の前の担任業務」から「学年」「学校全体」、そして「国や県の教育」へと視野を広げる契機となったと思える。

同じ地方公務員である警察官の場合はどうであろうか。

日々、予期せぬ事件事故に対応し、一分一秒を争う現場で任務を全うする警察官たち。そこには「じっと異動を待つ」ような弛緩した時間はない。しかし、多忙を極める現場だからこそ立ち止まって考えることも必要だろう。

「自分は今、何のためにこの業務をしているのか」「これがどう県民の安心に繋がるのか」

特に若い警察官にあっては、目の前の事象を処理するだけでなく、組織の狙いや社会的な意義まで視野を広げて捉えること。そして「自分ならどうするか」という一歩踏み込んだ意識を持つことが大切であろう。

ルミノール反応は過酸化水素で酸化される際の反応だが両者を混ぜただけでは発光しない。微量の鉄分（血液中のヘモグロビン）が加わることによって、それが触媒となって劇的な発光が生じる（それゆえ微量血液の検出に利用されるのですね）。目の前の業務をこなすだけでなく、ほんの少し視野を広げ、考えを巡らすことが困難な現場を生き抜く知恵や組織改革などをもたらす触媒となりうるのではないだろうか。

掲載内容に関するご意見等がございましたら、
下記までお問合せ願います。

警務部総務課（公安委員会補佐室）
〒320-8510 宇都宮市塙田1-1-20 警察本部庁舎
電話番号：028-621-0110（代表）